

然雁ぜんかりが飛び立ったのを見て、敵てきがかくれていることがわかり、大合戦だいがっせんになっただど。

権五郎景正ごんごろうかげまさは必死に戦って、夢中むちゆうで敵の中に斬きりかかっていったんだど。

その時、突然とつぜん左の眼めに矢がささり、その眼めからはどろどろと血が流れ、その形相ぎようそうは鬼のようであつただど。

それを見た近くの者が、景正かげまさの眼めの矢を抜ぬこうとして、顔に足をのせて引き抜ぬいたところ景正かげまさが

「武士の顔面がんめんに足をのせるとはふとどきなやつ。」

と猛り狂たけくるつただど。

それから、

「この矢を射いた者は誰だ。名を名のれ。」

と大声で探し歩いただど。

その時、